

自立援助ホーム：県内初、4月に開設 居場所ない少年に「第二の家」 児童福祉司ら、24時間支援

毎日新聞 2013年02月03日 地方版

虐待や貧困で家庭にいられず、働かざるを得なくなった15～19歳の青少年に生活の場を提供する自立援助ホーム「あらんの家」(奈良市芝辻町)が4月、県内で初めて開設される。同市のNPO法人「青少年の自立を支える奈良の会」が設立。代表の友廣信逸・奈良大准教授(64)は「居場所のない子供たちが安心して暮らせる、温かい第二の家庭になってほしい」と願っている。【岡奈津希】

自立援助ホームは、中学卒業や高校中退の後、就労のため児童養護施設を出た子供たちのほか、児童自立支援施設や少年院からの退所者など、安心して生活できる家庭がない青少年が入所する。児童福祉施設は18歳になると原則として退所しなければならないため、高校を卒業しても就職できなかつたり、家庭に戻れない青少年の就労と自立も支える。

「奈良の会」の前身となる「奈良に自立援助ホームをつくる会」は10年8月、非行少年の親でつくる「奈良つきあかりの会」や児童養護施設職員、大学教授、弁護士らが設立。青少年の自立についての定期的な勉強会やシンポジウムを開き、11年3月に現在の名称に変えて開所の準備を進めてきた。

「あらんの家」は、住宅街の一角にある2階建て一軒家を改装。定員6人で、男性のみ受け入れる。児童福祉司や社会福祉士のスタッフ、ボランティア、同会メンバーらが泊まり込み、24時間体制で支える。

「父性と母性を両方感じてほしい」と男女のスタッフを置き、社会生活に必要なスキルを身につける生活支援と就労支援を行う。緊急時の一時避難所としても利用でき、精神科医や臨床心理士資格を持つ僧侶も支援メンバーに加わる。

友廣さんは「虐待を受けた子供たちは、コミュニケーションがうまく取れなかつたり、生活スキルが乏しいケースも少なくない。施設を出てすぐに自立するのは大変なことで、支援を必要としている」と話している。問い合わせは同会事務局(0743・73・0531)。